

受賞者の声

橋谷 俊 (物理科学研究科 構造分子科学専攻 5年一貫性博士課程5年)

NFO-14 The Best Poster Presentation Award およびOSJ-OSA Joint Symposia Student Award

2016年9月4 - 8日に浜松アクロシティで開催されたNFO-14 (The 14th International Conference on Near-Field Optics, Nanophotonics and Related Techniques) にてポスター発表を行い、The Best Poster Presentation Awardを受賞しました。また、10月30 - 31日に筑波大学東京キャンパスで開催されたOSJ (日本光学会) - OSA (アメリカ光学会) Joint Symposia on Plasmonics and Digital Photonicsにて口頭発表を行い、Student Awardを受賞しました。私は英語での発表に不安もありました

が、無事やり遂げることができ、さらにこのような形で評価していただけたということで、少し自信が持てるようになりました。

受賞対象となった研究は、アキラルな(キラルでない)ナノ物質にアキラルな直線偏光を照射した場合でも、ナノ物質の周辺において局所的にキラルな円偏光電場が発生する事を実験的に明らかにしたというものです。ナノ空間に局在するキラルな光場は、高感度分子キラリティ検出等に応用できると期待されており、今後はそのよ



授賞式にて OSA会長Prof. A. Willner (左)、Joint Symposia Chairの尾松孝茂 千葉大教授(右)と筆者(真中)。

うな方向にも研究を展開していきたいと考えています。

最後に、今回の受賞にあたり研究および研究発表をご指導いただきました岡本裕巳教授をはじめとする研究室の皆様に、この場を借りて感謝の意を表します。

榎本 孝文 (物理科学研究科 構造分子科学専攻 5年一貫性博士課程3年)

錯体化学会第66回討論会のポスター賞および Dalton Transactions Award

2016年9月10日 - 12日に福岡大学で開催された錯体化学会第66回討論会にて「歪んだフタロシアニン化合物を利用した近赤外光誘起電子移動反応 (Near-infrared Light Induced Electron Transfer Reaction Using Distorted Phthalocyanine)」というタイトルでポスター発表を行い、錯体化学会よりポスター賞を、また、Royal Society of Chemistryより最優秀ポスター賞であるDalton Transactions Awardをいただきました。セッションでは、審査員の先生から学生まで幅広い方々から熱いディスカッションを頂き、非常に良い刺激を

得ることが出来ました。

今回の受賞対象となった研究では、一般に広く用いられている“可視光”よりもエネルギーの低い“近赤外光”を駆動力として動作する、光誘起電子移動反応(光のエネルギーを電気化学的なポテンシャルへと変換する反応)系の構築を試みました。歪み構造を有するフタロシアニン化合物に着目し、これを色素分子として利用することで、低エネルギーの近赤外光でも光誘起電子移動反応が駆動できることを実験的に証明いたしました。今後は近赤外光で創り出した電気化学的なポ



授賞式にて 左より 正岡准教授、西原東京大学教授(錯体化学会 会長)、筆者、近藤助教。

テンシャルを利用し、貯蔵可能な化学エネルギーにまで変換することを目指しています。

今回の受賞に際し、多くのご支援とご指導を賜りました正岡重行准教授、近藤美欧助教をはじめとする研究室の皆様に深く感謝いたします。今後ともこの受賞を励みに、多くの面白い成果を残せるよう精進して参ります。